

## 令和7年度 千葉県における「このしろ東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

### （1）千葉県におけるコノシロの漁業実態

千葉県におけるコノシロは、漁獲のほとんどが東京湾であり、漁法は主にまき網漁業となっている。海面漁業生産統計によると、直近3か年平均で、全国の漁獲量約3,600トンに対し、千葉県の漁獲量は約1,860トンであり、全国漁獲量の約5割を占め全国トップとなっている。

### （2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価において判断される中位以上の資源水準（漁獲量で1年当たり643トンを上回る資源水準）を維持する。

該当する資源管理協定

「このしろ東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、2漁協所属の約30名が、コノシロを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考	協定	備考
船橋市		天羽	

本検証の対象協定

自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
まき網漁業	休漁日の設定	12月第4土曜日以外の毎週土曜日	天羽

協定に記載されている取組

### ( 3 ) 資源管理の効果の検証

本県におけるコノシロ漁獲量は、年変動が大きく、1978年に2,805トンを記録したが、その後増減を繰り返し、2015年に615トンとなった。その後、増加傾向となり、2023年の漁獲量は2,754トンであった(図1)。県の令和7年(2025)度資源評価では、現在の資源動向は高位、資源水準は増加となっている(図2)。協定参加者による検証(以下、「自己点検」という。)では、漁獲努力量は維持していると判断されたものの、漁獲量及びCPUE(単位努力量あたり漁獲量)は増加と判断しており、資源評価の結果と一致している。また、魚価(単価)も維持と判断している。

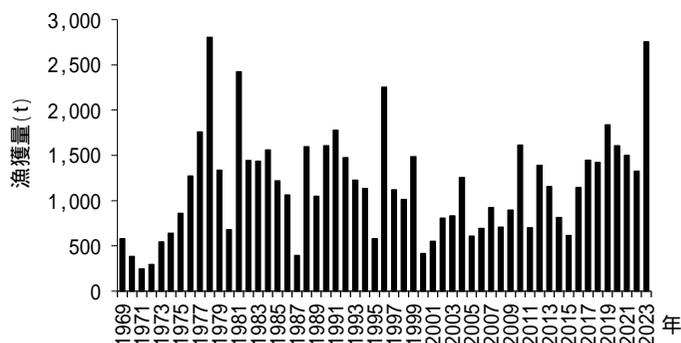


図1 コノシロ漁獲量の経年変化

(千葉県農林水産統計年報、海面漁業生産統計)

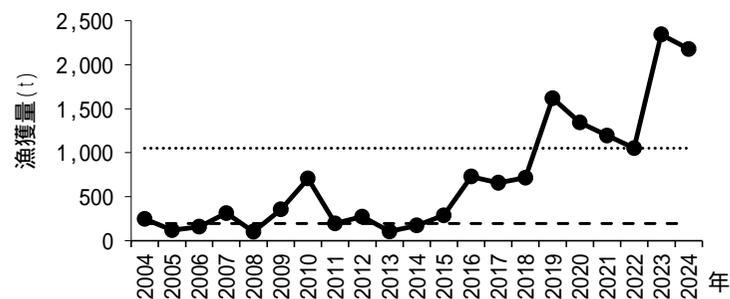


図2 東京湾主要漁協における中・小型まき網の

コノシロ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

### ( 4 ) 効果をもとめるための協定の改善・高度化の検討

コノシロについては休漁日の設定が実施され、自己点検では漁獲努力量が減少していると判断された中で、県の資源評価では資源水準が高位となっている。自己点検でも取組の効果があると判断されていることから、漁業者がこれまで実施してきた資源管理の取組が資源維持の一助になっていると考えられる。

今後も良好な資源状態を維持するため、現在の取組を継続するとともに、海洋環境の変化や資源の動向に注視していくことが重要と考えられる。